

教授

目野 郁子

■ 学歴

1. 1982年 福岡県立福岡女子大学家政学部 卒業

■ 学位

1. 1994年 九州大学 博士 (医学)

■ 研究分野

1. 病原微生物学
2. 免疫学

■ 研究キーワード

1. 病原微生物
2. 感染症
3. 感染対策
4. ワクチン
5. 免疫

■ 研究課題

1. 本学1年生を対象に健康管理カルテを作成しその有用性について検討を行う。
2. 保育園をモデルに感染症流行を制御するために効果的な感染症予防対策について検討する。

■ 担当授業科目

1. 感染と免疫 (前期) (看護学科) 必須
2. 生物と生命科学 (前期) (看護学科) 選択
3. 生物と生命科学 (前期) (福祉学科) 選択
4. 初年次セミナーI (前期) (看護学科) 必須
5. 初年次セミナーII (後期) (看護学科) 必須
6. 微生物学 (後期) (福祉学科) 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p>授業科目名 【感染と免疫】</p> <p>①例年、初回講義では、本科目の CP における位置付けを説明し、科目で得た知識を形態機能学・疾病学・基礎看護学・薬理学に連携させるよう説明した。</p> <p>②講義で知識を習得させ、並行して実習を行った。自身の体をつかい検体を採取する技法や顕微鏡下で検体を観察する技法を習得し、学内において医療現場を想起できるよう工夫した。</p> <p>③講義内容を整理するプリント「ポイント整理」を講義進行に伴い配布し、小テストを組み合わせることで主体的学習を促し、また、学習への姿勢を確認した。「ポイント整理」は、紙面配布だけでなく、Classroom にも掲載して学生がいつでも取り組める環境を作った。</p> <p>④質問を受ける際には、「ポイント整理」を持参させ、学生の習熟度を確認した。</p>
2.	<p>授業科目名 【生物と生命科学（看護）】</p> <p>①高校で学ぶ生物の基礎知識をもとに学科特性に合わせて、ヒトの生体に焦点をあてた講義内容にした。常に生体の正常なものと異常を（疾患）を組み合わせ、事例を展開しながら形態機能学や疾病学に関連づけ講義を行った。</p> <p>②講義内容を整理するための「ポイント整理の提示」は、主体的な学習を促す意味で実施した。今年度は、Classroom にも掲載し、学生がいつでも取り組めるようにした。また、「ポイントの整理」と「小テスト」を組み合わせることで学生の学習姿勢を把握した。</p> <p>③理解が難しい講義内容については、学生同士で話しあいの場を設けて、理解できない点は質問を受けた。質問とそれに対する応答・講義の学び直しは、受講生全員と共有した。</p>
3.	<p>授業科目名 【生物と生命科学（福祉）】</p> <p>①講義内容は、高校で学ぶ生物の基礎知識をもとに学科特性に合わせてヒトの生体に焦点をあてたものとした。生体の正常なものと異常（疾患）を組み合わせ、事例を展開しながら講義を行った。</p> <p>②講義内容を整理するための「ポイント整理の提示」は、主体的な学習を促す意味で実施した。今年度は、Classroom にも掲載し学生がいつでも取り組めるようにした。また、「ポイントの整理」と「小テスト」を組み合わせることで学生の学習姿勢を把握した。</p> <p>③講義開始時には、前回の講義内容の復習を行い、また、講義資料を使って学生に自ら発表させる場、質問を受ける場を設けた。</p>
4.	<p>授業科目名 【初年次セミナーⅠ（看護）】</p> <p>①講義、課題などのスケジュールを自己管理するために、ポートフォリオを毎回持参させシラバスで確認するよう指導した。</p> <p>②ミニレポート・レポート作成にあたり以下の点について改善を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が苦手とする「問いの発見」については、問いだてを理解しやすいようにシートの改善を行った。 ・文献検索法を繰り返し説明、実践させることで、情報の入手法の習熟度を上げる取り組みをした ・ミニレポートの課題文は、難易度を考慮した。また、課題文をモデルに問いだての仕方や文献の読み方を講義した。
5.	<p>授業科目名 【初年次セミナーⅡ（看護）】</p>

	<p>①プレゼンテーションにウェイトを置き、従来よりもプレゼンテーション準備に充てる時間を1コマ増やし、「発表する」「討論する」力の強化に努めた。</p> <p>②初回の全体講義は他学科と合同開催とし、異なる学科のメンバーとグループワークを行うことで交流の機会とした。</p> <p>③グループ力の強化に重点を置き、ユニット（3人）を二つ組み合わせたグループ（6人）を編成し、ユニットやグループ内で討論・推敲しながら協力して創り上げるプロセスを経験できるように工夫した。メンバー間のコミュニケーションをとりやすいように、メンバー編成は他科目と連動したものとした。</p> <p>④個々人の役割を明確にして、全員が何らかのリーダー役割、メンバー役割を経験できるような仕組みを構築した。</p> <p>⑤評価は個人評価、ユニット評価、グループ評価を組み合わせ、学生にもあらかじめ周知したうえで能動的に取り組むように働きかけた。</p> <p>⑥作業が効率よく進められるように、毎回PCを持参するように呼びかけた。</p>
6.	<p>授業科目名【微生物学（福祉）】</p> <p>①今年度は、学生の意見を参考に、講義の進め方を工夫した。昨年度とかえ、パワーポイントによるスライドの講義の後、教科書に戻り講義のまとめを行った。</p> <p>②小テストのスケジュールや試験範囲を早くから classroom に掲載して早期からの復習を促した。また、例年提示するポイントの整理は、自学を促進する意味で効果を認めているため講義重要項目として講義進行にあわせて随時 classroom にアップした。</p> <p>③将来の就職現場において、この科目がどのような役割を果たすのかをイメージできるように事例などのトピックスを展開し、学生の学習に対するモチベーションアップを目指した。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1987年4月～現在に至る	日本細菌学会	
2.	1996年4月～現在に至る	日本感染症学会	
3.	2000年4月～現在に至る	日本小児保健協会	
4.	2004年4月～現在に至る	日本環境感染学会	
5.	2016年4月～現在に至る	日本ワクチン学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	なし				
（学術論文）					

1.	なし				
(翻 訳)					
1.	なし				
(学会発表)					
1.	2023.11	A女子大学 における 「健康管理 カルテ」の 作成と配付 ー学生の自 己管理能力 向上をめざ してー	共	第69回 日本学 校保健学会学術 大会 (於 聖心女子大 学)	①概要：本学1、2年生を対象に配布した「健康管理カルテ」の利用状況を調査した。その結果から、入学直後に配布した学生はあらゆる場面で利用しており、自身の健康に関心を持ち、健康意識が高まるよう入学直後の配布が望ましいこと、また、今後の利用意志のない学生も一定数いたことから、配布後も定期的に働きかけをする必要があることが分かった。 ②共同発表者名：山田恵、水貝洵子、樋口由貴子、目野郁子、高崎智子 ③日本学校保健学会 第69回学術大会 講演集(P130)

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023年5月1日～2025年4月 30日	福岡県食品安全・安心委員会	有識者委員

2.	2023年10月4日	遠賀・中間地区保育協会： 会員を対象に「全身感染症：麻疹・風疹・水痘/带状疱疹」というテーマでe-ランニングによる研修会講師を務める。	研修会講師
3.	2024年2月18日	公益財団法人予防接種リサーチセンター：「予防接種に関する研究報告会」において「百日咳」研究発表の座長を務める。	研究発表会座長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017年4月～2023年3月31日	人事委員会	委員長(2021年4月1日～2024年3月31日)
2.	2016年4月～2023年3月31日	動物実験委員会委員	
3.	2003年4月～ 現在に至る	保健福祉学部附属保健福祉学研究所	運営委員
4.	2021年4月～現在に至る	外部資金促進導入プロジェクト	プロジェクトメンバー
5.	2009年4月～2023年3月31日	看護学科推薦入試合格者に対する入学前課題担当	看護学科入学前課題担当者
6.	2011年～現在に至る	学生の健康支援：保健室と協働しワクチンで予防可能な感染症について予防接種手帳配布・抗体検査結果配布、予防接種が必要な学生には個別に接種勧奨を行う。	学生の健康支援メンバー
7.	2023年4月～2026年3月31日	西南女学院評議会	評議員